

第 1215 回放送分『炎症性腸疾患』3 回目

ゲスト：上小鶴孝二ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「炎症性腸疾患」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 上小鶴孝二（かみこづる こうじ）ドクターです。
上小鶴さん、よろしくお願いいたします。

上小鶴Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週までは、炎症性腸疾患には、潰瘍性大腸炎とクローン病の2つがあり、
そのうちの潰瘍性大腸炎についてお話しいただきました。
今日はもう一つのクローン病について教えていただけますか。

上小鶴Dr.

はい。先週までお話しした潰瘍性大腸炎は、大腸炎というだけあって、
病変は大腸なのですが、クローン病は口からお尻までどこでも病変ができる病気です。

二見いすず

そうなんですね。患者さんの割合としては、
クローン病よりも潰瘍性大腸炎の患者さんの方が多いということでしたよね。

上小鶴Dr.

潰瘍性大腸炎の患者様は日本で約31万人、クローン病は9.5万人で
ともにこの8年間で1.4倍に増加しています。
そしてクローン病も潰瘍性大腸炎と同じように若い方が多いです。

二見いすず

先ほど、クローン病は口からお尻までとおっしゃっていました。
具体的にはどのような症状があるのでしょうか？

上小鶴Dr.

自覚症状としては、腹痛、下痢、血便、体重減少などです。
さらによくあるエピソードとして「もともと口内炎がしやすい」とか、
「痔瘻があります」とか話される患者さんがいらっしゃいます。

二見いすず

口内炎だと、生活習慣が乱れたりしたときにできるという方も多いと思います。

そしてそのとき、たまたま腹痛や下痢が続いたら
見過ごされることもありそうですね。

上小鶴Dr.

たまたま重なったら、おそらくすぐに治ると思いますが、
クローン病の場合は月単位や年単位と慢性的なことも特徴です。

二見いすず

そうなんですね。クローン病も潰瘍性大腸炎と同じように
消化器内科を受診すればいいのでしょうか。

上小鶴Dr.

はい。最初は、ふだん風邪のときに受診している
かかりつけの内科を受診したとしても、
内科の先生から「消化器内科で一度検査をしてください」とか
「クローン病や潰瘍性大腸炎の可能性がある」ということで
消化器内科を紹介されるという流れになると思います。

二見いすず

分かりました。クローン病もやはり原因がはっきりとは分かっていないのでしょうか。

上小鶴Dr.

はい。クローン病も潰瘍性大腸炎と同じように、遺伝的な要素を持つ人で、
感染など何かしらが引き金となって、免疫が異常に働いて
自分の体を攻撃してしまうと考えられています。

二見いすず

こちらもやはり完治はなくて、
症状が落ち着いている状態の寛解と、
症状が悪化している状態の再燃を繰り返すということでしょうか。

上小鶴Dr.

はい、そうです。検査や治療についてはまた来週お伝えいたします。

二見いすず

よく分かりました。
今月は炎症性腸疾患についてお送りしています。
お話は鹿児島県医師会 上小鶴孝二ドクターでした。
上小鶴さん、ありがとうございました。

上小鶴Dr.

ありがとうございました。